

サイバーセキュリティ戦略本部 重要インフラ専門調査会  
第 28 回会合 議事概要

1 日時

令和 4 年 3 月 22 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分

2 場所

Web 会議

3 出席者（五十音順・敬称略）

（委員）

有村 浩一 一般社団法人 J P C E R T コーディネーションセンター 常務理事  
稲垣 隆一 稲垣隆一法律事務所 弁護士  
植村 元洋 野村ホールディングス株式会社 グループ・I T 統括部長  
大杉 謙一 中央大学 大学院法務研究科 教授  
大林 厚臣 慶應義塾大学 大学院経営管理研究科 教授  
鐘築 泰則 住友生命保険相互会社 情報システム部 システムリスク管理室長  
川合 一匡 成田国際空港株式会社 経営企画部門 I T 推進部 次長  
木村 正人 日本電信電話株式会社 技術企画部門 セキュリティ・アンド・トラスト室 次長  
河野 敬一 一般社団法人日本クレジット協会 業務企画部部長  
神保 謙 慶應義塾大学 総合政策学部 教授  
高橋 正和 株式会社Preferred Networks 執行役員 最高セキュリティ責任者  
田中 明良 日本放送協会 情報システム局 C S I R T 部長  
手塚 悟 慶應義塾大学 環境情報学部 教授  
奈良由美子 放送大学 教養学部 教授  
西原 靖幸 株式会社三菱UFJ銀行 システム企画部 サイバーセキュリティ推進室 サイバーセキュリティグループ 次長  
塗師 敏男 横浜市 最高情報セキュリティ責任者補佐監  
野口 和彦 横浜国立大学 客員教授  
細川 猛 石油化学工業協会 総務部 担当部長  
堀内 浩規 一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟 理事 兼 通信制度部長  
前川 篤 株式会社シグマクシス シニアフェロー、大阪大学 招聘教授、京都大学 特任教授  
松本 勉 横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授  
山内 勝浩 公益財団法人金融情報システムセンター 監査安全部長  
山北 正宣 東日本旅客鉄道株式会社 技術イノベーション推進本部 システムマネジメント部門 次長  
横浜 信一 日本電信電話株式会社 執行役員 セキュリティ・アンド・トラスト室長 C I S O  
渡辺 研司 名古屋工業大学 大学院工学研究科 教授

## (事務局)

高橋 憲一 内閣サイバーセキュリティセンター長  
下田 隆文 内閣審議官  
吉川 徹志 内閣審議官  
江口 純一 内閣審議官  
山内 智生 内閣審議官  
中溝 和孝 内閣参事官  
堀 真之助 内閣参事官  
結城 則尚 内閣参事官  
中尾 康二 サイバーセキュリティ参与

## (オブザーバー)

内閣官房 (事態室)  
警察庁警備局警備企画課  
金融庁総合政策局リスク分析総括課  
デジタル庁戦略・企画グループ  
総務省サイバーセキュリティ統括官室  
総務省自治行政局デジタル基盤推進室  
外務省大臣官房情報通信課  
厚生労働省政策統括官付サイバーセキュリティ担当参事官室  
経済産業省商務情報政策局サイバーセキュリティ課  
原子力規制庁長官官房  
国土交通省総合政策局情報政策課サイバーセキュリティ対策室  
防衛省整備計画局情報通信課 AI・サイバーセキュリティ推進室

## 4 議事概要

### (1) 開会

渡辺会長から開会に際しての挨拶が行われた。

### (2) 報告事項

資料2「関係省庁の取組状況」に基づき、金融庁、総務省、厚生労働省及び経済産業省から報告が行われた。また、資料3「重要インフラを取り巻く情勢」及び資料4「分野横断的演習の実施」に基づき、事務局から報告が行われた。また、報告事項の後に高橋センター長から挨拶が行われた。

(本議題に関する主なやりとりは次のとおり。)

(稲垣委員)

- 医療機関のサイバーセキュリティの確保に向けた資金と基盤について、いつまでにどのような基盤を作り、その資金をどのように準備するのか。

(厚生労働省)

- サイバーセキュリティに係る取組を医療費に上乗せすることができない状況のもとで、医療機関の規模が千差万別といったことを考慮しながら、必要な基盤や資金について検討していきたい。

(野口委員)

- 分野横断的演習について、いつの頃からか課題を見つける訓練が必要だといわれるようになったが、それはある程度のレベルに到達している組織にとって有効なのであって、事前準備不足の点は課題とは言えない。評価については、何人、何社が参加したという数値的なもので計るものではなく、達成目標に対して、実施内容、結果、課題などをもとに多角的に検証することが重要だと考える。

(堀参事官)

- 課題を見出した参加者の割合の数字を資料に載せているが、それで十分ではなく、事前の対策が十分に機能した、という状態を目指し参加者に対する我々からの働きかけ、説明をしっかりと行う必要がある。評価について、事後的にどのように検証していくかは今後検討していきたい。

(松本委員)

- 資料2-2の「診療に及ぼす影響」について、本来受けられていた医療を受けられなくなるという観点が重要と考える。また、サプライチェーン対策にはどのように取り組むか。

(厚生労働省)

- 一点目については御指摘の通り。二点目については、まずは医療機関のシステムのセキュリティポリシーを明確化するところから取り組んでいきたい。

(高橋委員)

- バックアップによる復旧以外の取組にも目を向けて欲しい。
- 演習はデバッグ機能として非常に有効であり、対応レベルの評価を返すような枠組みがあってもいいのではないか。

(稲垣委員)

- 自治体情報システムの標準化・共通化の取組も参考にしつつ、医療分野におけ

る共通基盤を検討して欲しい。

### **(3) 討議事項**

資料5及び資料6に基づき事務局から説明がなされ、討議が行われた。討議を踏まえた当該資料のとりまとめについては渡辺会長一任となった。

(本議題事項に関しては非公開。)

### **(4) 閉会**

吉川副センター長から閉会に際しての挨拶が行われた。

以上